



資料

1 答申策定経過等

(1) 経過概要

平成 22 年

- 2 月 1 0 日 スポーツ振興審議会（計画策定を諮問）
- 4 月 2 7 日 スポーツ振興審議会（課題の整理）
- 7 月 8 日 第 1 回検討委員会（スポーツの定義など基本概念）
- 1 0 月 2 7 日 第 2 回検討委員会（目標、現状、施策の検討）

平成 23 年

- 2 月 8 日 スポーツ振興審議会（検討委員会の検討状況報告）
- 5 月 2 5 日 スポーツ振興審議会（策定方針の確認）
- 6 月～9 月 他の政令市担当者&学識経験者等ヒアリング
- 1 1 月 8 日 第 3 回検討委員会（骨子案、アンケート案の検討）
- 1 2 月 市民アンケートの実施

平成 24 年

- 1 月～2 月 学識経験者等ヒアリング
- 2 月 1 3 日 スポーツ推進審議会（検討委検討状況報告（骨子案））
- 7 月 9 日 第 4 回検討委員会（答申素案の検討）
- 9 月 4 日 スポーツ推進審議会（答申案の検討）
- 1 1 月 6 日 スポーツ推進審議会（答申案の検討）
- 1 1 月 7 日 「名古屋市の新スポーツ推進計画について」
名古屋市の生涯スポーツ振興策のあり方にかかる答申



(2) 名古屋市スポーツ推進（振興）審議会委員

(敬称略)

氏 名	役 職	備 考
磯田 芳美	名古屋市女性レクリエーションバレーボール 連絡協議会会長	
伊藤 みどり	プロフィギュアスケーター	平成 24 年 5 月 退任
うかい 春美	名古屋市会教育子ども委員会委員長	平成 22 年 6 月 退任
加藤 常文	名古屋市教育スポーツ協会副理事長	平成 24 年 5 月 退任
加藤 幹敏	中日新聞社取締役編集担当兼スポーツ紙担当	平成 24 年 5 月 退任
亀山 みはる	名東区ジュニアスポーツクラブ運営委員長	平成 24 年 5 月 退任
松田 一正	名古屋市体育指導委員連絡協議会会長	平成 22 年 5 月 退任
竹内 敏子	中京大学教授	平成 24 年 5 月 退任
津下 一代	あいち健康の森健康科学総合センターセンター長	
寺田 邦昭	南山大学名誉教授	平成 24 年 5 月 退任
福島 義広	名古屋グランパスエイト専務取締役	平成 24 年 5 月 退任
松田 秀子	愛知淑徳大学教授	
山本 裕二	名古屋大学教授	
横江 清司	スポーツ医・科学研究所所長	平成 24 年 5 月 退任
澤木 英和	名古屋市体育指導委員連絡協議会副会長	平成 22 年 5 月 就任 平成 22 年 6 月 退任
鎌倉 安男	名古屋市会教育子ども委員会委員長	平成 22 年 6 月 就任 平成 23 年 3 月 退任
おかどめ 繁宏	名古屋市会教育子ども委員会委員長	平成 23 年 4 月 就任 平成 24 年 5 月 退任
中山 和春	名古屋市スポーツ推進委員連絡協議会会長	平成 22 年 6 月 就任 平成 24 年 2 月 逝去
後藤 泰之	名古屋市教育スポーツ協会理事 (名古屋市体育協会運営審議員)	平成 24 年 5 月 就任
佐藤 良平	中日ドラゴンズ取締役球団代表	平成 24 年 5 月 就任
鶴原 清志	三重大学教授	平成 24 年 5 月 就任
中田 有紀	東海学園大学講師	平成 24 年 5 月 就任
松村 亜矢子	北京五輪日本代表 (シンクロナイズドスイミング)	平成 24 年 5 月 就任
山本 秀樹	名古屋グランパスエイト取締役事業本部長	平成 24 年 5 月 就任
小川 としゆき	名古屋市会教育子ども委員会委員長	平成 24 年 6 月 就任
淀川 悦子	名古屋市スポーツ推進委員連絡協議会評議員	平成 24 年 6 月 就任

※平成 23 年 10 月「名古屋市スポーツ振興審議会」から「名古屋市スポーツ推進審議会」へ改称

(3) 名古屋市スポーツ振興計画検討委員会委員

(敬称略)

役 職 等		氏 名
会 長	南山大学名誉教授 (平成 24 年 5 月までスポーツ推進審議会会長)	寺田 邦昭
副会長	名古屋市体育協会会長 (平成 24 年 5 月までスポーツ推進審議会副会長)	加藤 常文
委 員	名古屋市女性レクレーションバレーボール連絡協議会 会長 (スポーツ推進審議会委員)	磯田 芳美
	あいち健康の森健康科学総合センターセンター長 (スポーツ推進審議会委員)	津下 一代
	名古屋大学教授 (スポーツ推進審議会委員)	山本 裕二
	名古屋市スポーツ推進委員連絡協議会会長 (スポーツ推進審議会委員) (平成 24 年 2 月逝去)	中山 和春
	名古屋市小中学校体育連盟会長	
	健康福祉局健康部長	
	子ども青少年局こども未来部長	～平成 23 年度
	子ども青少年局子育て支援部長	平成 24 年度
	緑政土木局緑地部長	
	天白区区民生活部長	
	教育委員会学校教育部長	
	教育委員会生涯学習部長	

2 市民アンケート結果概要

(1) 調査の概要

- ア 調査対象 市内に在住する 20 歳以上 80 歳未満の男女
- イ 標本数 3,000 人
- ウ 抽出方法 住民基本台帳バジジマスターをフレームとする無作為抽出法
行政区ごとに抽出(区人口に応じて標本数を 4 グループに指定)
- ① 中川区、緑区 各 270 人
- ② 千種区、北区、西区、中村区、港区、南区、守山区、名東区、天白区 各 210 人
- ③ 昭和区、瑞穂区 各 150 人
- ④ 東区、中区、熱田区 各 90 人
- エ 調査期間 平成 23 年 12 月 8 日～31 日
- オ 回収数・率 1,158 人 (38.6%)

(2) 主な内容

スポーツを「する」現状について

ア スポーツ実施率について

今回の H23 アンケート調査では、運動・スポーツの定義を広くとらえて質問したこともあり、週 1 日以上の頻度で運動・スポーツをする率(以下、「実施率」という。)が 58.4%(前回(H20)調査では 40.9%)であった(図 1-1)。

性別・年代別で比較すると、性別においては、女性の実施率が若干高くなってはいるが(女性:59.9%、男性:57.0%)、大きな差はない。また、全体的には、概ね年代が上がるほど、高くなる傾向がある。

30 歳代については、性別による差(男性:60.3%、女性:42.7%)が顕著である。

また、実施率が低い層では、実施頻度について「月に 1~3 回程度」の割合が高い。

図1-1.過去1年間の運動・スポーツの実施頻度(性別、年代別)

☒ ほぼ毎日 ☐ 週に3日～4日 ☐ 週に1～2日 ☐ 月に1～3日程度 ☐ 3ヶ月に1～2日
☐ ほとんどしていない ☐ していない ☐ わからない ☐ 無回答

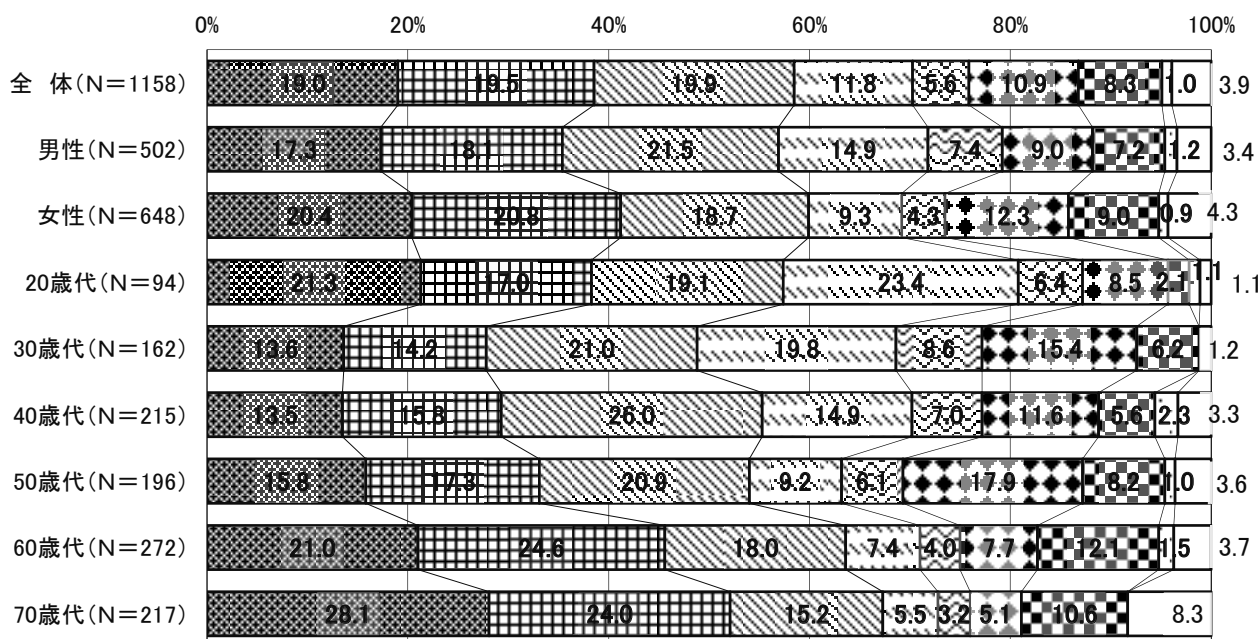
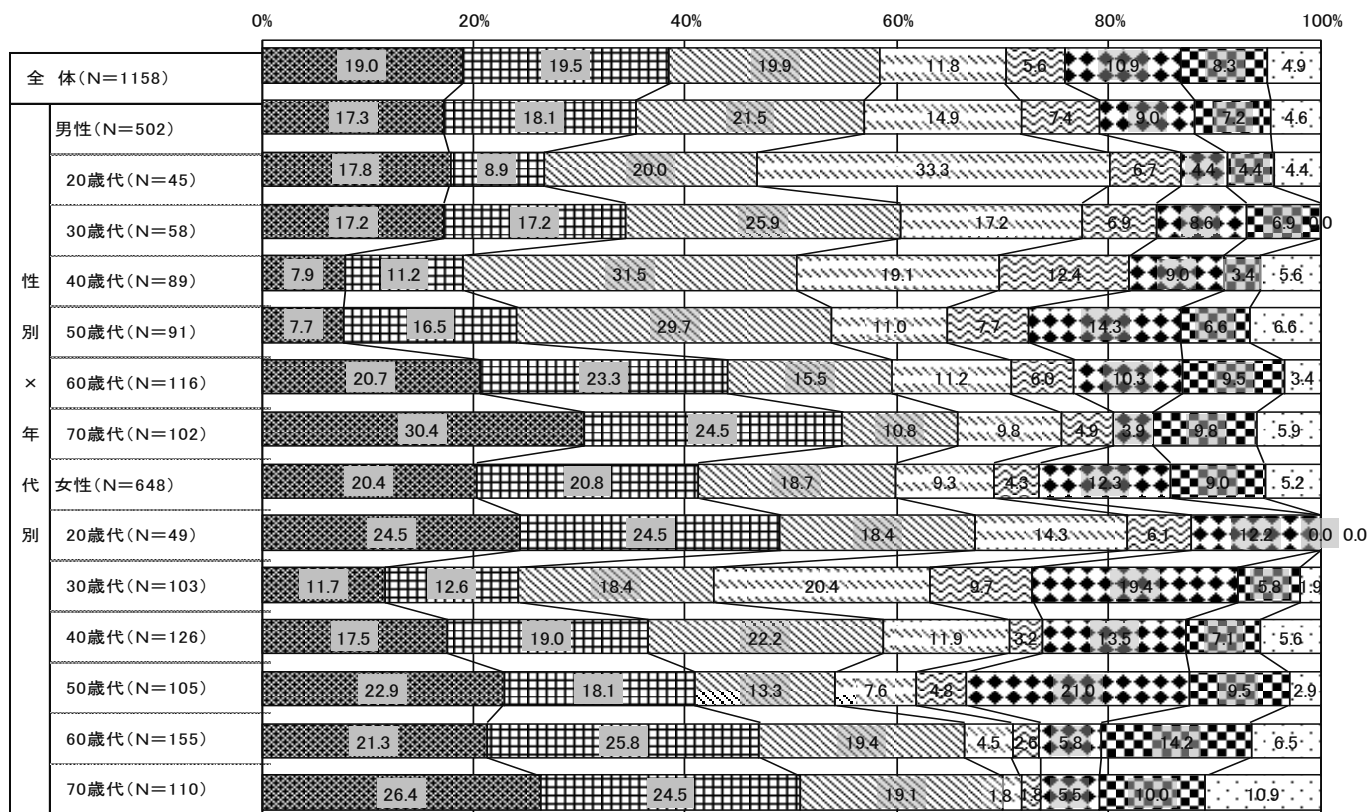


図 1-2. 過去 1 年間の運動・スポーツ実施頻度 (性別×年代別)

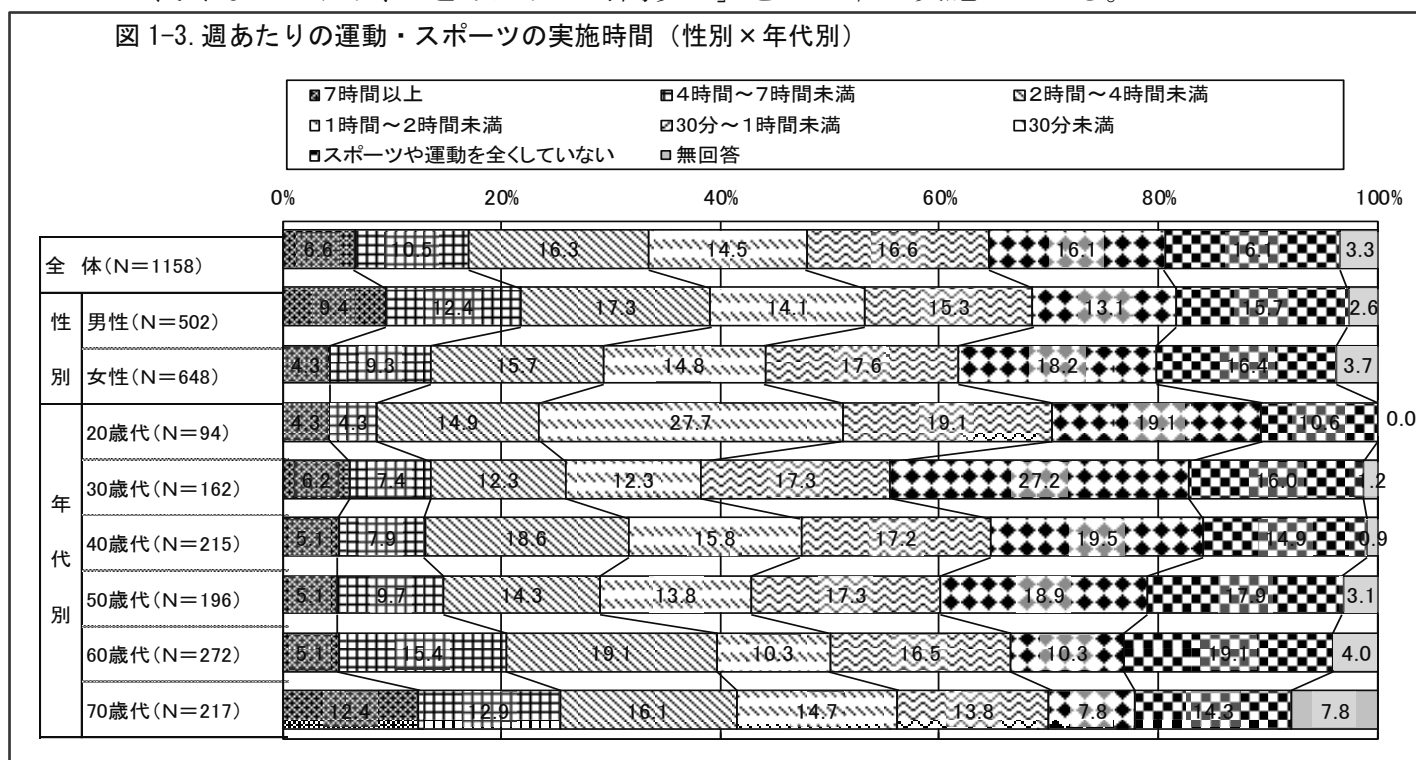
☒ ほぼ毎日 ☐ 週に3日～4日 ☐ 週に1～2日 ☐ 月に1～3日程度
☐ 3ヶ月に1～2日 ☐ ほとんどしていない ☐ していない ☐ 不明・無回答



イ スポーツ実施時間について

実施率に準じた結果となっている。実施頻度が高い層において、実施時間も長くなっており、「週あたり1時間以上」を47.9%が実施している。

図 1-3. 週あたりの運動・スポーツの実施時間（性別×年代別）



ウ スポーツの実施内容（種目別運動・スポーツ実施率）

今回の H23 アンケート調査では、「日常生活の中での運動・健康づくり」、「軽運動、レクリエーション」、「競技的、鍛練的スポーツ」の三種類に種目を分類して、質問をした。ウォーキング・散歩（62.3%）、自転車（通勤などで健康づくり等のため意識的に行う走行を含む（31.0%））など日常生活の中での運動・健康づくり、体操（ラジオ体操、職場体操、美容体操、エアロビクス、なわとびなど（30.5%））などといった運動強度のあまり強くなく手軽にできるスポーツの実施率が高い数値を示している。性別（表 1-1）、年代別（表 1-2）に見ても、この傾向はほぼ同様である。

また、定期的・継続的に実施している種目（表 1-3）についても、ウォーキング・散歩（18.0%）、自転車(9.5%)、体操(7.7%)が同様に上位を占めている。

表1-1. 種目別運動・スポーツ実施率(過去1年間:全体・性別)

順位	全体(N=1158)		順位	男性(N=502)		順位	女性(N=648)	
	実施種目	(%)		実施種目	(%)		実施種目	(%)
1	ウォーキング・散歩	62.3	1	ウォーキング・散歩	59.8	1	ウォーキング・散歩	64.7
2	自転車(通勤なども含む)	31.0	2	自転車(通勤なども含む)	26.1	2	体操	36.0
3	体操	30.5	3	体操	23.5	3	自転車(通勤なども含む)	34.9
4	室内での軽い運動	17.1	4	ゴルフ(練習場、カートを利用)	19.9	4	室内での軽い運動	19.9
5	ボウリング	12.9	5	ボウリング	16.7	5	水中歩行、遊泳	13.9
6	水中歩行、遊泳	12.0	6	室内での軽い運動	13.7	6	子どもとの遊びの中での運動	11.3
7	子どもとの遊びの中での運動	11.8	7	子どもとの遊びの中での運動	12.7	7	ボウリング	10.0
	ゴルフ(練習場、カートを利用)	11.8		釣り	12.7	8	ヨガ、太極拳	9.7
9	室内アスレチック運動	9.7	9	ゴルフ(カートを利用しない)	12.0	9	室内アスレチック運動	8.5
10	水泳	7.7	10	室内アスレチック運動	11.4	10	登山、ハイキング	8.0
11	ジョギング(通勤なども含む)	7.3	11	ジョギング(通勤なども含む)	10.0	11	水泳	7.6
	登山、ハイキング	7.3	12	水中歩行、遊泳	9.6	12	ダンス	7.4
13	釣り	6.9	13	水泳	8.0	13	ゴルフ(練習場、カートを利用)	5.7
14	ゴルフ(カートを利用しない)	6.8	14	野球、ソフトボール	7.8	14	ジョギング(通勤なども含む)	5.2
15	スキー、スノーボード	5.9	15	スキー、スノーボード	7.2	15	スキー、スノーボード	4.9
16	ヨガ、太極拳	5.6	16	登山、ハイキング	6.4	16	テニス	4.3
17	テニス	5.1	17	テニス	6.0		卓球	4.3
18	ダンス	4.7	18	サッカー、フットサル	5.2	18	グラウンド・ゴルフ、ゲートボール	4.0
19	グラウンド・ゴルフ、ゲートボール	4.3	19	グラウンド・ゴルフ、ゲートボール	4.8	19	キャンプ、オートキャンプ	3.5
20	野球、ソフトボール	4.1	20	ランニング、マラソン	4.6	20	バドミントン	3.2
	卓球	4.1						

表1-2. 種目別運動・スポーツ実施率(過去1年間:年代別)

順位	20歳代(N=94)		順位	30歳代(N=162)		順位	40歳代(N=215)	
	実施種目	(%)		実施種目	(%)		実施種目	(%)
1	ウォーキング・散歩	53.2	1	ウォーキング・散歩	50.6	1	ウォーキング・散歩	59.5
2	自転車(通勤なども含む)	47.9	2	自転車(通勤なども含む)	38.9	2	自転車(通勤なども含む)	37.7
3	体操	39.4	3	体操	29.6	3	体操	32.6
	ボウリング	39.4	4	子どもとの遊びの中での運動	29.0	4	子どもとの遊びの中での運動	20.9
5	室内での軽い運動	24.5	5	ボウリング	21.6	5	ボウリング	19.1
6	ジョギング(通勤なども含む)	22.3	6	水中歩行、遊泳	20.4	6	室内での軽い運動	17.7
7	子どもとの遊びの中での運動	21.3	7	室内での軽い運動	19.1	7	ゴルフ(練習場、カートを利用)	15.3
8	サッカー、フットサル	16.0	8	水泳	13.0	8	室内アスレチック運動	14.4
	スキー、スノーボード	16.0	9	ゴルフ(練習場、カートを利用)	11.7	9	水中歩行、遊泳	12.6
10	水中歩行、遊泳	13.8	10	ジョギング(通勤なども含む)	11.1	10	スキー、スノーボード	12.1
順位	50歳代(N=94)		順位	60歳代(N=162)		順位	70歳以上(N=215)	
	実施種目	(%)		実施種目	(%)		実施種目	(%)
1	ウォーキング・散歩	62.2	1	ウォーキング・散歩	65.8	1	ウォーキング・散歩	73.7
2	体操	25.5	2	体操	27.9	2	体操	32.7
3	自転車(通勤なども含む)	24.0	3	自転車(通勤なども含む)	25.4	3	自転車(通勤なども含む)	24.9
4	室内での軽い運動	12.8	4	室内での軽い運動	14.3	4	室内での軽い運動	19.4
5	ボウリング	11.7	5	ゴルフ(練習場、カートを利用)	14.0	5	グラウンド・ゴルフ、ゲートボール	9.7
	ゴルフ(練習場、カートを利用)	11.7	6	ゴルフ(カートを利用しない)	10.3	6	水中歩行、遊泳	8.8
7	水中歩行、遊泳	10.2	7	水中歩行、遊泳	9.9		室内アスレチック運動	8.8
	室内アスレチック運動	10.2	8	ヨガ、太極拳	7.4	8	ゴルフ(練習場、カートを利用)	6.9
9	登山、ハイキング	8.2		釣り	7.4		登山、ハイキング	6.9
	テニス	8.2	10	室内アスレチック運動	5.9	10	卓球	5.5
				登山、ハイキング	5.9			

表1-3 種目別運動・スポーツ定期的・継続的实施率(過去1年間:全体・性別)

順位	全体(N=1158)		順位	男性(N=502)		順位	女性(N=648)	
	実施種目	(%)		実施種目	(%)		実施種目	(%)
1	ウォーキング・散歩	18.0	1	ウォーキング・散歩	18.1	1	ウォーキング・散歩	18.1
2	自転車(通勤なども含む)	9.5	2	自転車(通勤なども含む)	9.2	2	自転車(通勤なども含む)	9.9
3	体操	7.7	3	ゴルフ(練習場、カートを利用)	5.4		体操	9.9
4	室内アスレチック運動	3.5		ジョギング(通勤なども含む)	5.0	4	水中歩行、遊泳	3.7
5	ゴルフ(練習場、カートを利用)	3.3	4	体操	5.0	5	ヨガ、太極拳	3.2
6	ジョギング(通勤なども含む)	3.0		室内アスレチック運動	5.0	6	室内での軽い運動	3.1
7	室内での軽い運動	2.8	7	ゴルフ(カートを利用しない)	3.4	7	ダンス	2.5
8	水中歩行、遊泳	2.5	8	野球、ソフトボール	2.6	8	室内アスレチック運動	2.3
9	ゴルフ(カートを利用しない)	2.0	9	室内での軽い運動	2.4	9	水泳	1.9
	テニス	2.0		テニス	2.4		子どもとの遊びの中での運動	1.7
11	子どもとの遊びの中での運動	1.8	11	ランニング、マラソン	2.2	10	ゴルフ(練習場、カートを利用)	1.7
	ヨガ、太極拳	1.8	12	子どもとの遊びの中での運動	2.0		テニス	1.7
13	ダンス	1.6		サッカー、フットサル	2.0	13	ジョギング(通勤なども含む)	1.5
	水泳	1.6	14	スキー、スノーボード	1.8	14	グラウンド・ゴルフ、ゲートボール	1.1
15	ランニング、マラソン	1.5	15	釣り	1.4	15	ランニング、マラソン	0.9
				サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ	1.4		ゴルフ(カートを利用しない)	0.9

エ スポーツを始めたきっかけ、続けている理由

運動・スポーツを始めたきっかけは(表 2-1)、「健康・体力づくりのため」(50.9%)、「運動不足を感じたから」(37.6%)、「老化防止のため」(21.9%)、「美容や肥満解消のため」(19.1%)と健康・体力づくり等健康を意識した理由が多くなっているが、「楽しみ・気晴らしのため」(32.6%)、「友人・仲間との交流のため」(22.7%)、「家族とのふれあいのため」(10.5%)と交流、ふれあいなどスポーツの持つ多様な意義を反映したものとなっている。

また、続けている理由としても(表 2-2)、同様に「健康・体力づくりに役立つから」(71.5%)、「楽しいから、気晴らしになるから」(37.3%)、「友人・仲間と交流できるから」(24.8%)などが上位を占めており、始めたきっかけが続ける理由となっているようである。

表2-1. 運動・スポーツを始めたきっかけ(性別、年代別)

(%)

	全体 (N=1158)	男性 (N=502)	女性 (N=648)	20歳代 (N=94)	30歳代 (N=162)	40歳代 (N=215)	50歳代 (N=196)	60歳代 (N=272)	70歳代 (N=217)
健康・体力づくりのため	50.9	51.2	50.9	44.7	42.0	53.0	47.4	54.4	57.1
運動不足を感じたから	37.6	37.1	38.1	40.4	34.6	44.2	35.7	36.0	35.5
楽しみ・気晴らしのため	32.6	36.1	30.2	46.8	40.7	37.2	30.6	29.4	21.7
友人・仲間との交流のため	22.7	25.9	20.1	37.2	16.0	22.3	21.4	21.7	24.0
老化防止のため	21.9	18.9	24.2	2.1	1.9	13.5	16.3	31.6	46.5
美容や肥満解消のため	19.1	10.4	26.1	26.6	27.8	31.6	15.3	11.4	10.1
家族とのふれあいのため	10.5	10.0	11.1	11.7	21.6	21.4	6.6	4.8	1.8
医師等より運動療法を指示されたため	4.6	6.6	3.1	1.1	0.6	2.3	3.6	7.4	8.8
自己の記録や能力を向上させるため	4.2	6.2	2.8	7.4	6.2	3.3	4.1	4.4	2.3
リハビリ目的	3.8	4.8	2.9	0.0	0.6	2.3	2.6	4.8	9.2
精神の修養や訓練のため	2.9	2.8	2.9	4.3	2.5	4.7	3.6	1.1	2.3
他者の姿をみて、してみたくなったため	2.1	3.6	0.9	6.4	1.9	4.7	1.0	0.7	0.5
その他	3.3	4.0	2.6	10.6	4.3	2.3	3.6	2.2	0.9
定期的・継続的に運動・スポーツはしていない	5.4	3.8	6.5	1.1	5.6	4.7	4.6	6.6	6.9
わからない	0.9	1.0	0.6	3.2	0.0	0.5	1.5	0.4	1.4
無回答	10.4	8.6	11.9	3.2	6.2	8.4	12.8	13.6	12.4

表2-2. 運動・スポーツを続けている理由(性別、年代別)

(%)

	全体 (N=646)	男性 (N=288)	女性 (N=357)	20歳代 (N=58)	30歳代 (N=84)	40歳代 (N=119)	50歳代 (N=101)	60歳代 (N=155)	70歳代 (N=129)
健康・体力づくりに役立つから	71.5	70.5	72.3	46.6	56.0	66.4	64.4	87.1	84.5
楽しいから、気晴らしになるから	37.3	42.4	33.3	41.4	41.7	37.0	42.6	33.5	33.3
友人・仲間と交流できるから	24.8	26.0	23.5	32.8	16.7	22.7	21.8	25.2	30.2
美容や肥満解消に役立つと思うから	16.4	10.8	21.0	13.8	25.0	25.2	14.9	10.3	12.4
家族とふれあえるから	5.0	4.2	5.6	6.9	11.9	7.6	4.0	3.2	0.0
自己の記録や能力を向上させられるから	3.9	5.2	2.8	6.9	3.6	3.4	7.9	1.9	2.3
精神の修養や訓練に役立っていると思うから	2.8	3.8	2.0	3.4	1.2	4.2	5.0	1.3	2.3
指導者や医師等にほめられるから	0.8	1.0	0.6	0.0	1.2	0.0	0.0	0.6	2.3
その他	3.9	4.2	3.6	10.3	6.0	3.4	6.9	0.6	1.6
わからない	0.2	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0
無回答	4.8	3.1	6.2	8.6	8.3	2.5	4.0	4.5	3.9

 最も回答が多い項目

 回答が多い上位3位

オ スポーツを実施しない理由

スポーツを実施しない理由としては(表 2-3)、全体では「仕事が忙しく時間がない」(33.9%)、「家事・育児・介護が忙しく時間がない」(17.1%)と「忙しく時間がない」という理由のいずれかへの回答者が 44.8%を占めた。「きっかけや機会がない」(28.5%)、「お金がかかる」(15.0%)なども多かった。

また、性別でみると、「仕事が忙しく時間がない」(男性:39.7%、女性:30.6%)と男性のポイントが高くなっているが、逆に「家事・育児・介護が忙しく時間がない」(女性:22.6%、男性:8.2%)、「お金がかかる」「運動・スポーツが好きでない」は女性が 6 ポイント強高くなっている。年代別に見ると、70 歳代につ

いては「体力や健康に自信がない」(20.8%)が多いという特徴はあるものの、他の世代では、忙しく時間がない、きっかけや機会がないといった理由が上位を占めており、世代間による差は大きくない。

表2-3 運動・スポーツを実施しない理由(性別、年代別)

(%)

	全体 (N=386)	男性 (N=146)	女性 (N=235)	20歳代 (N=28)	30歳代 (N=71)	40歳代 (N=76)	50歳代 (N=73)	60歳代 (N=84)	70歳代 (N=53)
仕事が忙しく時間がない	33.9	39.7	30.6	46.4	42.3	43.4	35.6	29.8	7.5
きっかけや機会がない	28.5	26.0	30.2	35.7	28.2	31.6	34.2	25.0	18.9
家事・育児・介護が忙しく時間がない	17.1	8.2	22.6	14.3	40.8	25.0	11.0	4.8	3.8
お金がかかる	15.0	11.0	17.4	0.0	23.9	17.1	19.2	11.9	7.5
運動・スポーツが好きではない	13.7	9.6	16.2	25.0	15.5	15.8	13.7	11.9	5.7
近くに適当な場所や施設がない	10.1	9.6	10.2	10.7	18.3	5.3	8.2	10.7	7.5
一緒に活動する仲間がいない	9.8	6.2	12.3	10.7	5.6	9.2	16.4	7.1	11.3
体力や健康に自信がない	9.1	6.8	9.4	0.0	1.4	5.3	15.1	9.5	20.8
他にしたいことがある	8.8	11.6	7.2	10.7	11.3	13.2	6.8	7.1	3.8
病気のため運動を禁止されている	5.4	6.8	4.7	0.0	0.0	2.6	9.6	10.7	5.7
したいと思う運動やスポーツプログラムがない	4.9	4.8	5.1	3.6	2.8	5.3	5.5	6.0	5.7
指導者がいない	0.3	0.0	0.4	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0
特に理由はない	13.5	18.5	10.6	10.7	11.3	10.5	11.0	17.9	17.0
その他	5.4	5.5	5.5	7.1	7.0	2.6	4.1	4.8	9.4
無回答	4.1	6.2	3.0	0.0	1.4	1.3	1.4	7.1	13.2

最も回答が多い項目

回答が多い上位3位

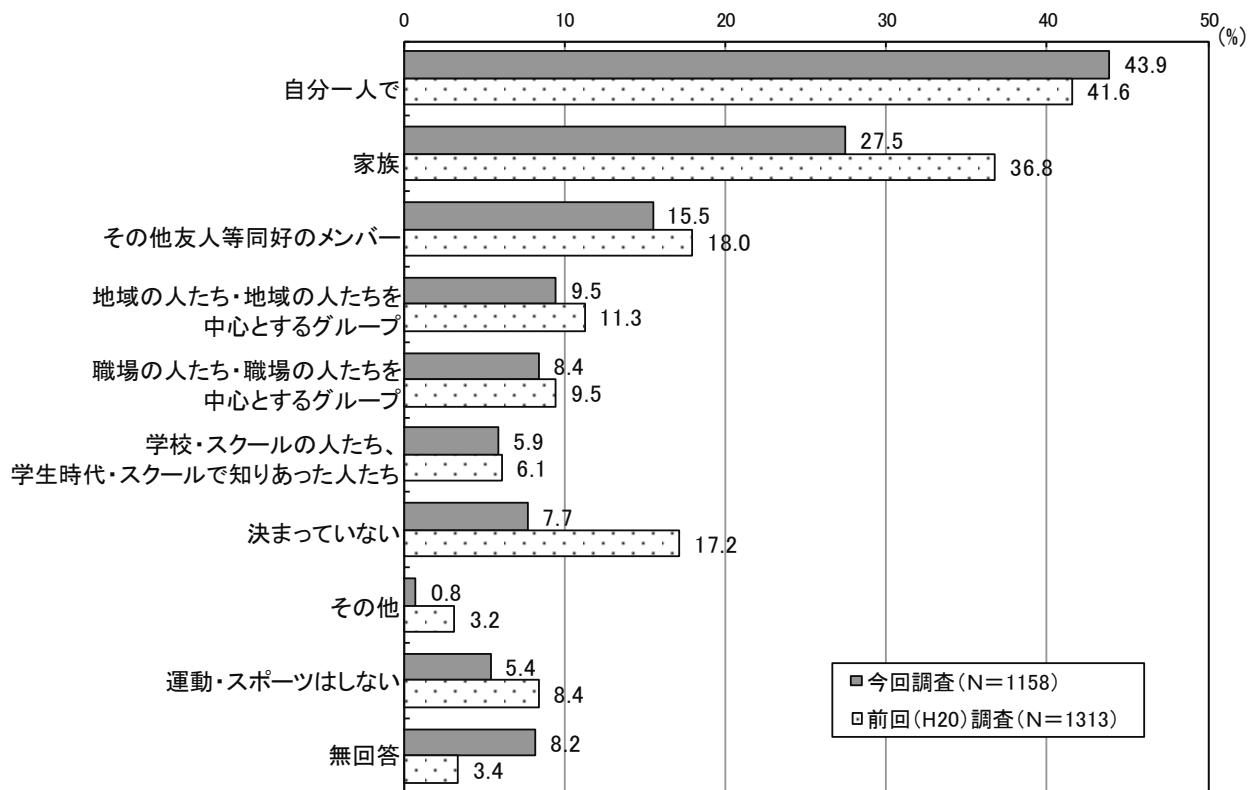
カ スポーツは誰と行うか

スポーツを実施するときは、「自分一人で」(43.9%)、「家族」(27.5%)、「地域の人たち・地域の人たちを中心とするグループ」(9.5%)、「職場の人たち・職場の人たちを中心とするグループ」(8.4%)、「その他友人等同好グループ」(15.5%)等となっており、「自分一人で」が最も多くなっている。

これを前回調査と比較すると「家族」での10%近くをはじめ、「地域」、「職場」、「その他友人」いずれも数%減っており、逆に主に誰と一緒にするか「決まっていな

い」が10%近く増えている。
前述のスポーツを続けている理由でも、「楽しいから、気晴らしになるから」、「友人・仲間と交流できるから」が多いが、一人でだけでなく、仲間(家族、地域、職場、その他の人々)と一緒にすることで、交流が深まり、また、楽しさも増し、より多くの人々がスポーツを続けていくことができると思われる。

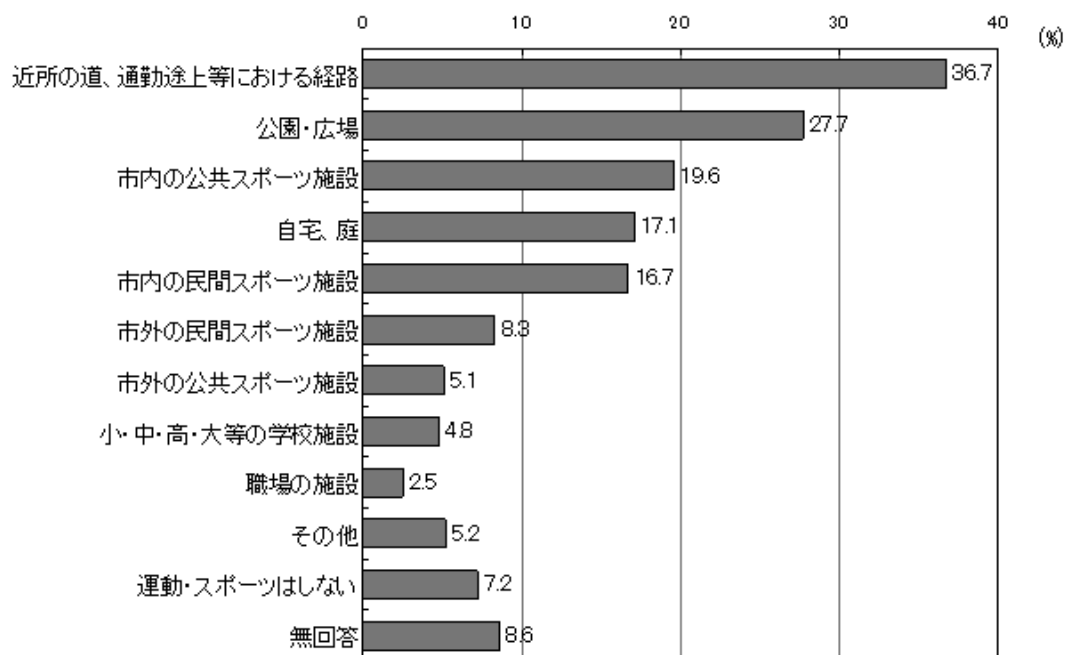
図2 運動・スポーツ実施形態(前回比較)



キ スポーツはするときに利用する施設は

スポーツをするときに利用する施設(図3)は、「近所の道、通勤途上における経路」(36.7%)、「公園・広場」(27.7%)、「市内の公共スポーツ施設」(19.6%)、「自宅、庭」(17.1%)、「市内の民間スポーツ施設」(16.7%)となっている。

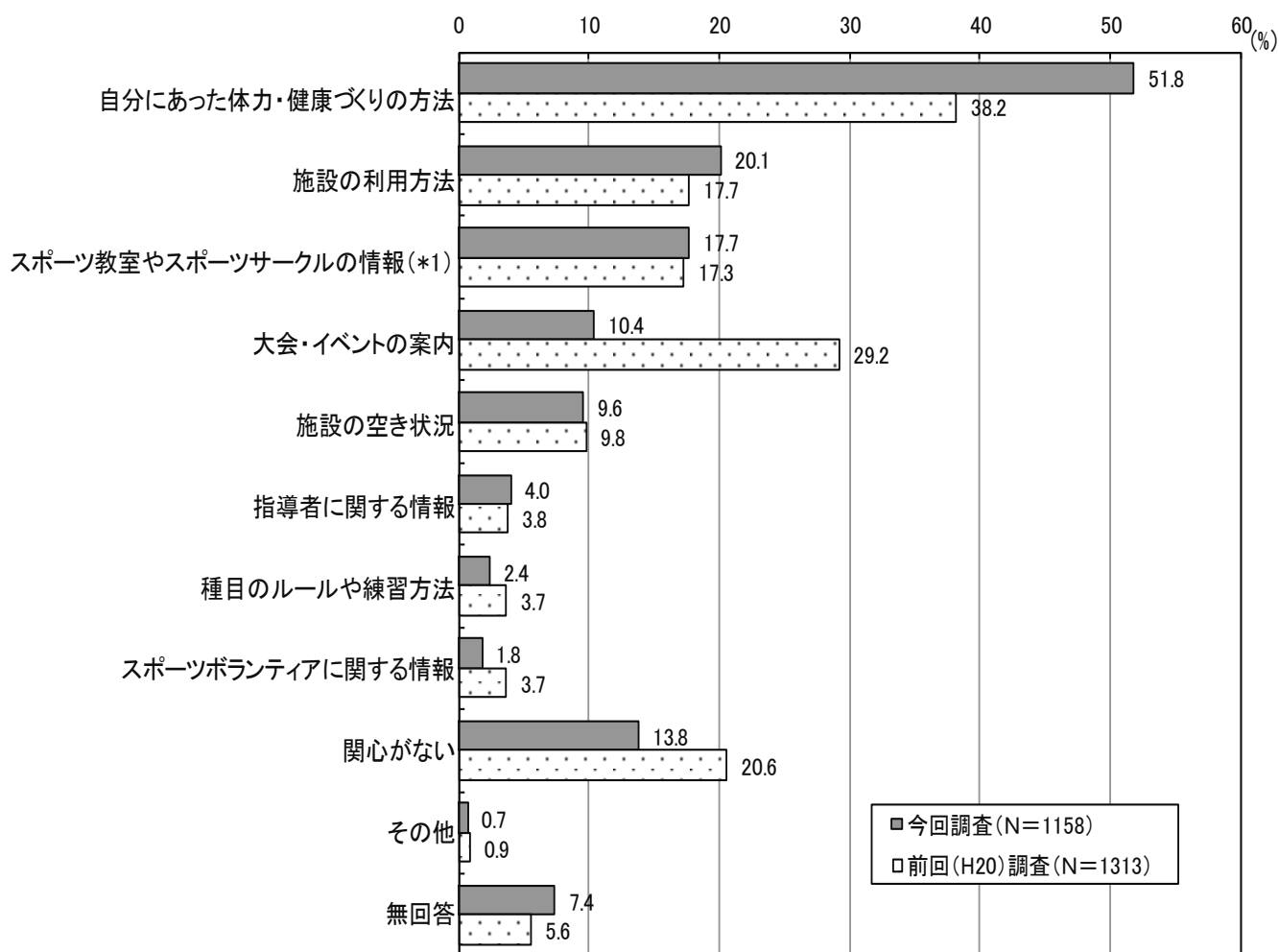
図3 運動・スポーツ利用施設



ク スポーツに関して入手したい情報は

スポーツに関して入手したい情報（図 4-1）としては、「自分にあった体力・健康づくりの方法」（51.8%）、「施設の利用方法」（20.1%）、「スポーツ教室やスポーツサークルの情報」（17.7%）、「大会・イベントの案内」（10.4%）となっているが、「大会・イベントの案内」については、20 ポイント近く減っており、逆に「自分にあった体力・健康づくり」が 38.2%から 13.6 ポイント増えている。このことは、日常生活の中でのスポーツ等、スポーツの定義が広くとらえられた結果と思われる

図 4-1. 運動・スポーツで欲しい情報（前回比較）

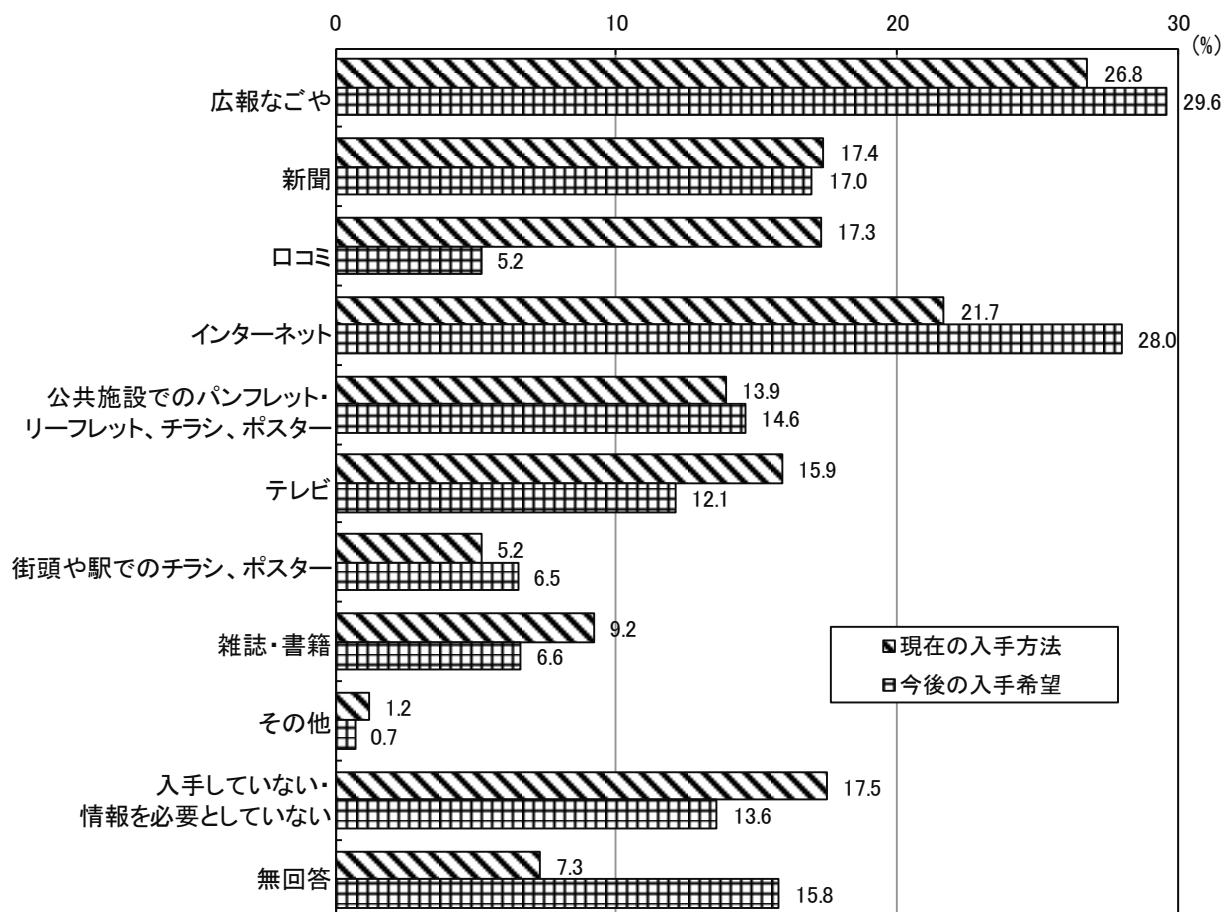


注: *1は前回調査では「クラブ・仲間募集」という表記であった。

ケ スポーツに関する情報の入手方法は

スポーツに関する情報の現在の入手方法（図 4-2）としても、「広報なごや」（26.8%）、「インターネット」（21.7%）、「新聞」（17.4%）、「口コミ」（17.3%）と続いており、今後の入手希望としても同様に、「広報なごや」（29.6%）、「インターネット」（28.0%）、「新聞」（17.0%）と続いている。

図 4-2. 運動・スポーツの情報源（現在と今後）



スポーツを「ささえる」現状について

コ スポーツ・ボランティア活動の実施状況は

スポーツ・ボランティアについて（図 5-1）は、「たずさわったことがある」が 7.7%に対して、「たずさわったことがない」が 88.2%の状況である。「たずさわったことがある」の内容としては、「地域のスポーツ活動などの運営や世話」（4.2%）、「スポーツ大会・イベントのボランティア」（2.2%）となっている。

また、今後スポーツ・ボランティア活動を行いたいかについて（図 5-2）は、「ぜひ行いたい」（2.1%）、「時間等の条件があれば行いたい」（27.3%）を合わせて 29.4%の人が実施の希望がある。「たずさわったことがある」と 20 ポイント以上のギャップがある。

図5-1.スポーツ・ボランティア活動の実施率

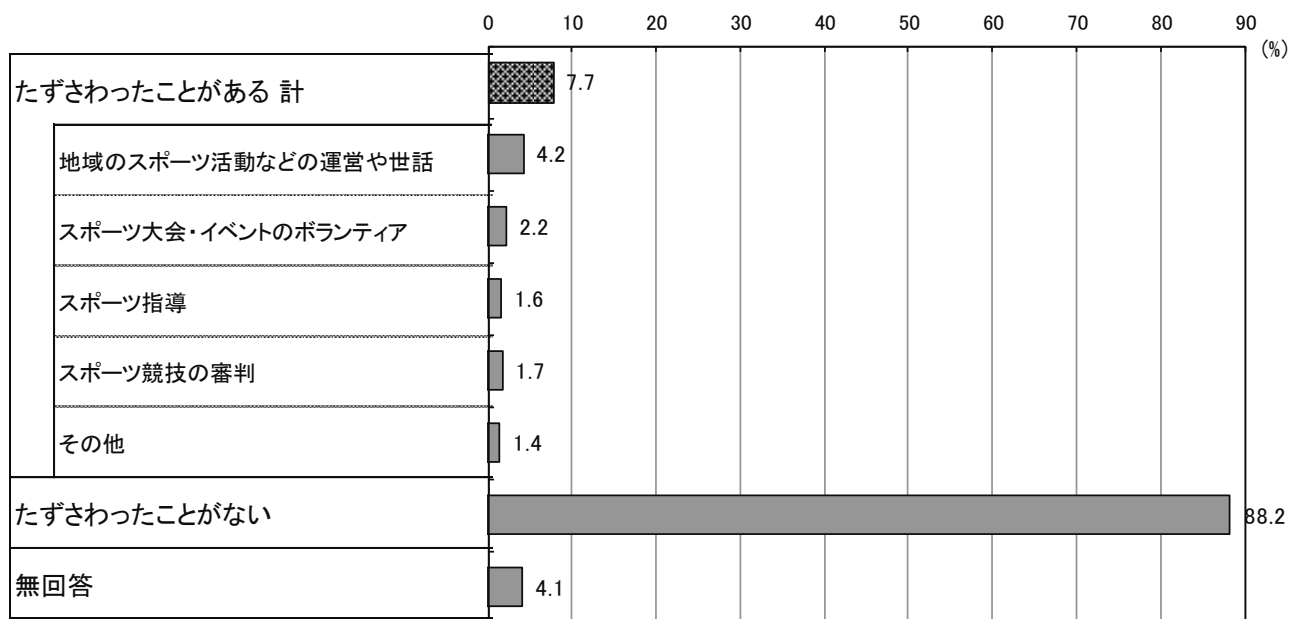
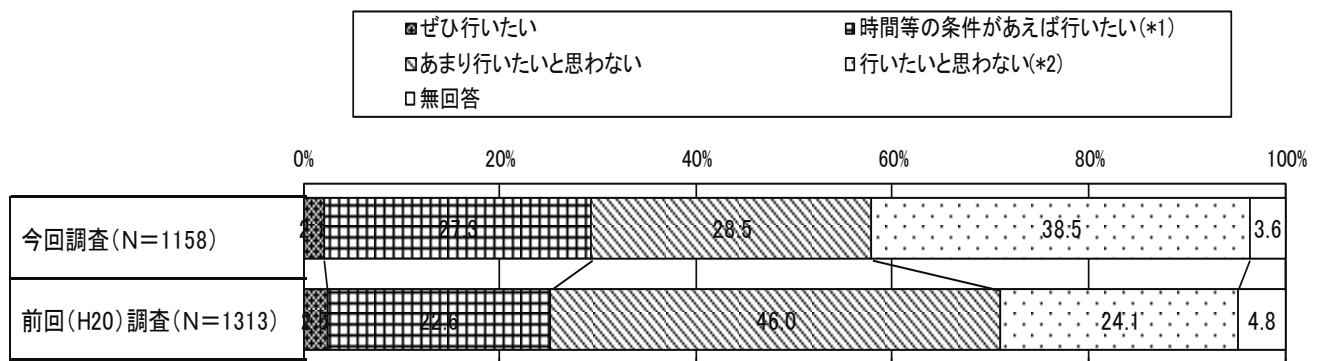


図5-2 スポーツ・ボランティア活動の実施希望率(全体・前回調査)



注)*1: 前回調査では「できれば行いたい」という表記であった。

*2: 前回調査では「全く行いたいと思わない」という表記であった。

スポーツを「みる」現状について

サ 観戦・応援したスポーツは

過去1年間に観戦・応援したスポーツ(図6-1)は、「日本代表などの国際試合、国際大会(テレビなどで)」(61.1%)、「プロ・アマのトップレベルの試合(テレビなどで)」(54.0%)と半数を超える人がマスメディア等を通じた視聴をしている。反面、見ていない人も15.2%いる状況である。

また、性別、年代別の観戦頻度(図6-2)は、スポーツの実施頻度とほぼ同様に、男性や高齢層で高くなっており、30代女性(12.6%)の観戦頻度が低くなっている。

図6-1 過去1年間に観戦したスポーツ

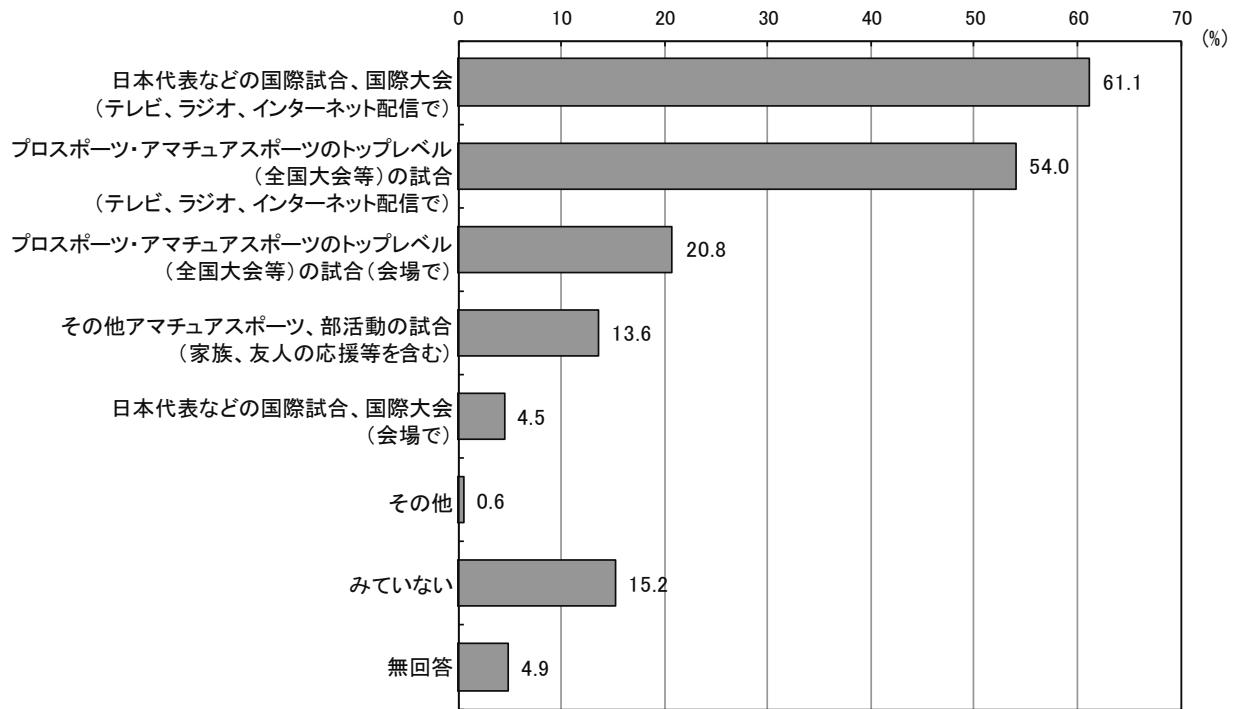
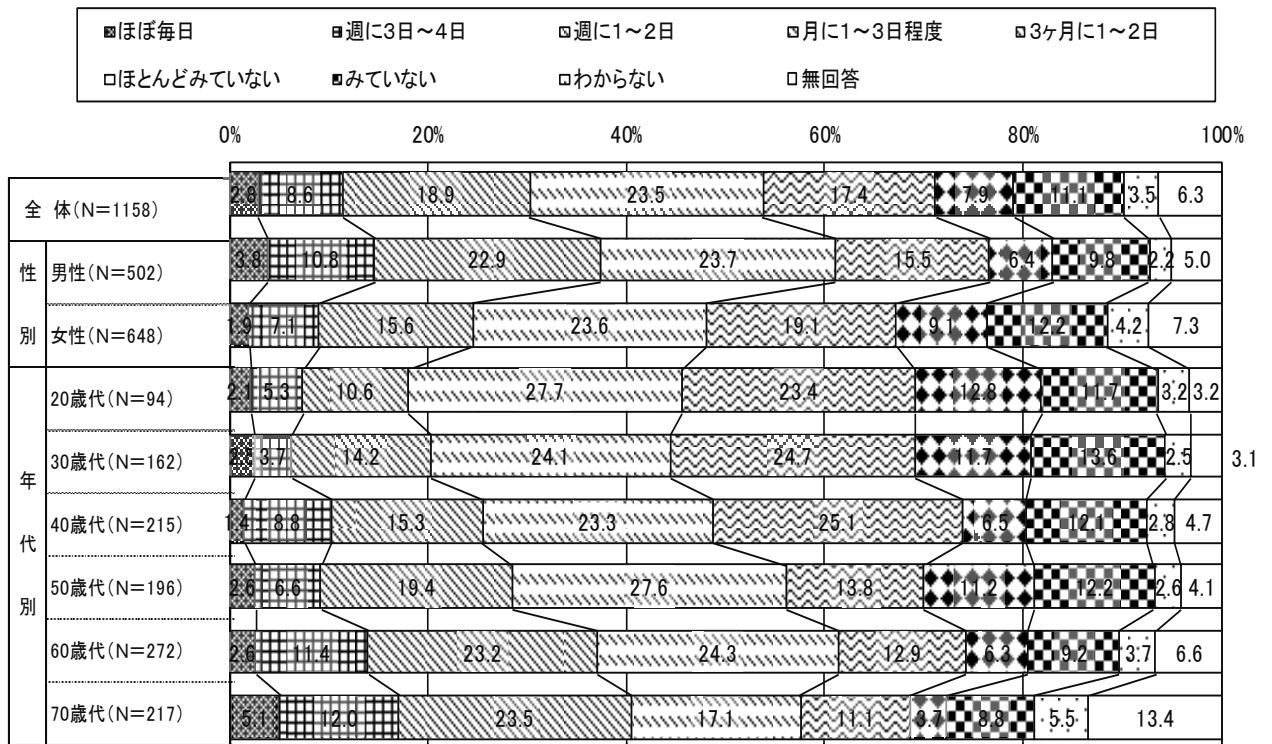


図6-2 過去1年間のスポーツ観戦頻度(性別、年代別)



スポーツ推進に関して市に期待することについて

シ スポーツの推進に関して名古屋市に期待することは

スポーツ活動を推進するため、名古屋市が今後力を入れていくべきこととして（図7）は、「歩いたり、走ったり、自転車で走行しやすい街づくりを進める」（51.4%）が最も多く、約半数があげている。

図7 名古屋市のスポーツ活動推進策

